

わが心の山 富士を語る その4
～神さま仏さま そして 富士山～

<1> 浅間神社

静岡県富士郡吉原町（後の吉原市、現在は富士市）で生まれた。

窓を開ければ富士山が見えたし、学校へ行く途中からも学校の校庭からも富士山はよく見えた。学校から帰ってから遊ぶ場所も、どこかに必ず富士山が見えていた。

家から5分ぐらいの所に浅間（せんげん）さんという神社があった。正式な呼び名は浅間神社と言い、その存在は周辺の町に住む者にとっては水と空気のような存在だった。年に何度か「浅間さんのお祭り」と呼ぶお祭りがあり、周囲を走る競馬もあった。

浅間さんから一筋の水路が走り、我が家の前を流れていた。川の名前は宮川と呼び、私が住んでいる町は「宮ノ上」という名が付いていた。宮川の流れの途中にはきれいな湧水が出て流れに加わっていた。この流れは生活用水となっており、小さな石段を下りて流れに手を入れて野菜などを洗うことが多かった。

七五三の時には、浅間さんに近隣の子ども達を集めて儀式が行われ、全員に千歳飴が配られた。現在のように、個々の家庭が家族単位で七五三を祝うようなことはなかったと記憶している。

小学校の三年生ぐらいの時だったのだろうか、遠足で白糸の滝へ行った時に「富士宮にも浅間神社がある」ことを知った。そして、それが富士山の周りに沢山あることや富士山の噴火を鎮めるために祀る宮であることも知った。

それから10年以上後になるだろうか、富士吉田の浅間神社へ行く機会があった。富士の宮の浅間神社も富士吉田の浅間神社も、故郷の浅間さんより遥かに大きな浅間神社だったのには驚いた。

<2> お山詣りと富士

富士山の周りにはいくつも浅間神社があるし、日本の各地に浅間神社は存在する。

富士山の周りにある浅間神社は、富士の噴火を鎮める目的で祀られたものと思うが、各地にある浅間神社は、富士山を参拝する「富士講」に端を発するもので、富士浅間神社のご神体（木花咲耶媛や浅間権現など）のコピーを祀るものが多いらしい。本山詣りをした人が帰宅してから、感謝の意を込めて地元に分社を作ったとか、行くことができない人のために富士山の分家を地元で祀ってあげたという説など様々あるらしい。

熊野詣・大山詣りなどとともによくの人を動かしたのが富士講だったようだ。

夏の暑い日に自転車で自宅近くを散歩していたら、畑の脇の小山に小さな石碑が建っているのが見えた。自転車のカゴに入っていたはさみと鎌で周囲の藪を刈り払って見たら「石尊権現 大天狗 小天狗」と書いてあった。これは、大山講の石塔で「大山阿夫利神社」を祀るものらしい。後ろを見ると文化年間のものであることがわかった。200年前のものようだ。幕張から佐倉へ抜けられる小さな道があるこのあたりは習志野台地の農地なので、恐らく「雨乞い」から来た「大山詣り」が行われていたのではないかと思われる。この石塔のように「石尊大権現」と刻まれたものは大山信仰のもので、かたや「小御岳石尊大権現」と刻まれたものは富士講（富士山の小御岳神社）によるものらしい。地元の旧道を歩いていると富士講・大山講・秩父霊場巡りなどの石塔や石碑を見かけることが多い。いかに多くの人々が自らの体を賭してお山を目指したかを測り知ることができる。

また日本各地に「富士」と名が付く町が存在するが、その多くは「その町から富士山が見えた」こともあるようだが、「富士講の名残」としてできた富士塚や手作りのミニ富士山（浅間神社付き）などが起源となっていることも多いようである。東京の地図を眺めていてもいくつも見つけることができる。富士見町（千代田区・中野区・板橋区など）、富士見台（練馬区・目黒区）、駒込富士前などなど。

